

久喜の春を楽しむ旅、もてなしに感謝

●歴史、文化、そして自然を堪能した旅、その1

昨9日の午前中は、久喜麗和会(奥貫和夫会長、高11回卒)と春日部地区浦高会(根本崇会長、高16回卒)による「久喜の春を楽しむ旅」でした。

散策コースは、久喜市観光ボランティアの初代会長でもある奥貫会長が厳選してくださったものです。

* *

- 1 集合地・挨拶(駅前ビル2階コーヒー店前)
- 2 寒梅酒造(越乃寒梅より旨い)
- 3 榎本家(久喜新町の大地主、前会長榎本善司宅)
- 4 中島敦ゆかりの家(中島撫山終焉の地、敦の父田人撰文書の碑)
- 5 御嶽山(撫山撰文書の碑)
- 6 総合文化会館(昭和62年創設、昭和63年に彩の国景観賞を受賞、前が市役所と県立図書館)
- 7 武井家(自然環境保全地域第1号)
- 8 久喜市民の森(横浜国大宮脇昭氏指導)
- 9 新川・梨畑
- 10 公文書館(遷善館の碑)
- 11 蘭月(懇親会場)
- 12 カラオケ会場(久喜駅西口サリアビル地下1階)



9時30分、西口サリアビル2階通路に集合しました。参加者は久喜麗和会から13名、春日部地区浦高会から15名+お子さん2名、観光ボランティア補助2名、合計32名でスタートしました。



〔挨拶される眞田久喜麗和会副会長(左から3人目)〕



〔駅前の中島敦案内版で説明される奥貫会長〕

久喜市は平成22年(2010年)3月23日に、鷲宮神社で有名な鷲宮町、日光街道の宿場町・利根川に設けられた栗橋関などで有名な栗橋町、古河公方足利成氏が築城した菖蒲城址や本多静六博士で有名な菖蒲町などと旧久喜市が合併し、多彩な歴史や文化、自然の豊かさを持つ都市です。旧久喜市には、戦国時代に二代目古河公方足利政氏が1518年(永正15年)に本町六丁目にある館に隠居して1519年(永正16年)に寺院に変えた甘棠院があり、江戸時代には三河譜代米津政武がこの地に陣屋を設け久喜藩が立藩されました。日光街道への道筋や、常陸・下総方面への道が通じていたことから、米麦野菜綿繭の集産地として、白木綿などの農業・商業や小さな宿場のあった街だったようです。

江戸時代(1803年)に代官の早川八郎左衛門が藩学と寺子屋の間に位置する郷学を教える学問所「遷善館(せんぜんかん)」を開設したことから文化・教育が開花し、明治初めには漢学・儒学者の**中島撫山**(1829-1911)が江戸から移り住みました。小説家の**中島敦**(1909-1942)は撫山の孫にあたり、今回の旅ではそうした中島家の足跡を楽しみました。



〔中島撫山宅後の敦銘板〕



〔榎本善兵衛宅〕

また、久喜の町長や初代市長を務められた**榎本善兵衛氏宅**、久喜麗和会前会長の榎本善司氏宅なども風格があり、寒梅酒造は蔵だけが残っています。「中島敦の会」などが中心となって中島撫山や敦の足跡を大切にしています。そんな一つが「御嶽山」の石碑で、撫山の書であることを奥貫さんが突き止められました。さらに平地に森を造る試みも。。



〔御嶽山、石碑は撫山書〕



〔武井家屋敷林、保全地〕



〔250人で1万本を植栽〕



〔案内役の奥貫会長〕

約2時間、久喜のさまざまな顔を知ることができました。詳細は次号以降で綴ります。おもてなしに感謝!